

「子ども環境探検隊・三陸ジオ編」

1. 趣旨

三陸ジオパークとその周辺の豊かな自然のもと、自然体験活動を通じて、自然の雄大さを感じとり、自然の仕組みや希少価値等について理解を深めるとともに、その保護や活用について考え、地域に根ざした環境教育の推進を図る。

2. 主催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

3. 後援 宮城県教育委員会・栗原市教育委員会

4. 協力 宮城県・栗原市・栗駒山麓ジオパーク推進協議会・三陸ジオパーク推進協議会・宮城県志津川自然の家

5. 事業の概要

(1) 期日 平成29年7月15日(土)～17日(月・祝)〔2泊3日〕

(2) 参加者

①参加対象

宮城・岩手県内の小学校4年生から6年生 25名程度

②参加状況

参加総数45名(応募者数47名 ※キャンセル2名)

	4年	5年	6年	計
男	14	5	6	25
女	8	5	7	20
	22	10	13	45

6. 場所 宮城県志津川自然の家 及び 三陸ジオパーク(ジオサイト)
国立花山青少年自然の家 及び 栗駒山麓ジオパーク(ジオサイト)

7. 講師 三陸ジオパーク気仙沼推進協議会運営委員長 豊田 康裕 氏
栗原市役所 産業経済部 ジオパーク推進室 研究員 原田 拓也 氏

8. 企画・運営のポイント

昨年度の子ども環境探検隊・栗駒山麓ジオ編後に、新しい切り口を模索した結果、「山から海へ」宮城県のジオパークを学びの一環として、「三陸ジオパーク」(平成25年9月に日本ジオパークとして認定)、との連携を図りながら、三陸ジオパークと栗駒山麓ジオパークを巡る探検として企画した。

9. 日程

		活 動 内 容
7/15(土)	【導入】	・船で志津川湾内を巡り、海から美しい島や砂浜を見学しながら、自然の恵みや自然の成り立ちについて考える。 ・南三陸町を訪問し、復興に向けた取組について学ぶ。
7/16(日)	【展開】	・三陸ジオパーク(気仙沼市)の岩井崎周辺で解説を聞きながら、自然の雄大さや震災の影響について考える。 ・塩づくり体験を行い、自然の恵みについて考える。 ・栗駒山麓ジオパークの伊豆沼、内沼で解説を聞きながら自然について学ぶ。 ・岩石の解説を聞きながら、岩石標本をつくる。
7/17(月・祝)	【まとめ】	・沢活動を通して、山と海のつながりを考えながら環境についてまとめる。 ・三陸ジオパークと栗駒山麓ジオパークの見学をもとに、自然のありがたさや自然の驚異についてまとめる。

10. 活動の内容について



「志津川自然の家周辺フィールド」・「三陸ジオパーク巡り岩井崎周辺」・「花山自然の家周辺フィールド」

11. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：93% やや満足：7% やや不満：0% 不満：0%

参加者45名に対して行ったアンケートの集計結果は、「満足」の割合が多かった。この事業は総合的にみて非常に好評であったといえる。

(2) 参加者の声

- ・洋上めぐりでは、海の知らないことがわかり、沢山の海の食べ物の詳しい話を学びました。
- ・船に乗ることがあまりないし、昔からの言い伝えなども学べて良かったです。
- ・アイスブレイクで違う班の人と一緒にやれたので、いっぱい友達になれてよかったです。
- ・塩づくり体験では塩の作り方が分かりました。
- ・三陸ジオパークで生き物の化石を探すのが面白かったです。
- ・化石が海岸で見つけることが出来るなんて思わなかったです。
- ・三陸ジオパークでは何一つ知らなかった化石を知ることが出来たし、探すのも楽しかったです。
- ・岩石標本づくりが楽しかったです。ラピリストーンのことについて初めて分かったのでとても勉強になりました。
- ・ただ体験するだけではなく、プリントなどで詳しく学べたことが良かったです。
- ・沢活動では前日に勉強した石を探すことができた。

(3) 成果

- ・今回は、宮城県のジオパークを学びの一環として、三陸ジオパークとの連携を図り、三陸ジオパークを巡り、ジオガイドの豊田康裕氏の説明を受けながら海の恩恵と津波の恐怖について学習することができた。
- ・「三陸ジオパーク」の解説や、「塩づくり」について、講義や体験を通して学ぶことができた。また、岩井崎周辺の化石探しを通して自然の恵みにふれることで、普段体験できない環境学習プログラムを参加者に提供することができた。
- ・「岩石標本づくり」では映像や資料で見ただけでなく、実際に手に取り近くで見ることができるプログラムを取り入れた。三陸の大地と栗駒山がそびえる栗原の大地の地形や岩石、気候など様々な違いについて学習できた。
- ・学生ボランティアを班付きカウンセラーにすることによって、ボランティアが主体的に子どもたちの支援に関わることが出来た。
- ・小学校4年生から6年生までの25名を募集したが、応募多数で47名の応募があり、45名で事業を実施した。特に4年生の応募が多かったのが特徴で、宮城県内の各地域から満遍なく参加を募る事ができた。

(4) 課題

- ・今回のプログラムはジオパークの数ある教材の中でも岩石標本作りと塩づくりが事業のメインとした。岩石標本作りの時間を長めに設定したことが好評だったが、伊豆沼・内沼サンクチュアリーセンターの見学についてももっと時間を取ってほしいという意見が寄せられ、見学と体験活動のバランスの難しさを感じた。
- ・今回の「海」の学びを、秋の「山」の学びにつなげていくことが課題である。

担当：企画指導専門職 山田 健一